

本実践(研究)のポイント(高校教育指導課指導主事 宮本洋子)

本実践は、医療事故を予防し、安全で質の高い看護が提供できるよう、リスクマネジメントから医療の質の向上について、生徒自身が看護師としてどのように実践したらよいかを、考えることができるように工夫された授業実践となっています。

また、看護師として医療チームの一員として活躍するために、チーム協働の視点からグループワークや他者の意見を共有することで、主体的かつ協働的に取組ませよう工夫がなされています。

1 はじめに

看護学概論は、看護の本質や対象の理解、看護倫理等、看護を学ぶ生徒が看護師として活躍するための基礎的な学習である。生徒が看護職者として医療事故を予防し、安全で質の高い看護が提供できるように、看護基礎教育では看護師の責務として考えさせる必要がある。学習を通して看護観を育成し、様々な対象者の看護を行うための基礎的な能力と態度を育てることが必要である。

2 問題の所在

生徒が考えているそれぞれの看護師像はよりよい看護を目指すという医療の質の向上と繋がっている。質の向上のために様々な状況に対する判断力と倫理的な視点を持った生徒の育成が必要である。このことから生徒の思いを大切にすることや、これまでの学習内容を活用し、社会から求められている医療の質の向上について関連させ、現在の学習が将来社会で活躍することに繋がることが意識できるよう指導していきたい。

今後看護師としてやチーム医療の一員として活躍するためにチーム協働の視点からグループワークや他者の意見を共有することで主体的かつ協働的に取り組ませたい。

3 具体的な取組み

- (1) 医療安全についてはこれまでの学習や臨地実習の経験から一定の知識理解は持っている。しかし、国民の医療の質に対する意識は高まっている中で安全な医療のための対策だけでなく、医療安全を含めた医療の質の向上の視点を持って看護の学習を深めていく必要があるため医療安全と質を関連できるよう考えさせた。
- (2) 事例の与薬は看護業務の中でインシデント・アクシデントの発症率が一番高いことを前時の授業で学習し、知識を活用させるために選択した。また、身近な場面としてイメージできると考えた。
- (3) 生徒の考えや気づきは ICT を活用し表現させ、また、プロジェクターで提示し生徒間で共有させた。
- (4) 生徒の思いを大切にすることや、これまでの学習内容を活用し、社会から求められている医療の質の向上について関連させ、現在の学習が将来社会で活躍することに繋がることが意識できるよう指導した。
- (5) チーム医療の一員として活躍するためにチーム協働の視点からグループワークを取り入れ他者の意見を共有した。
- (6) 本時の目標とはじめの発問、最後のまとめの発問を統一し、本時で学んだことを整理できるよう取り組んだ。

4 成果と課題

リスクマネジメントから医療の質の向上について生徒自身が看護師としてどのように実践したらよいかを考えさせることができた。最後のまとめの発問では「患者さんが安心して医療を受けられるようにまずは患者さんの話を聴き、共感すること、そして患者さんに対して十分な説明をすることが必要だと考えました。また、ミスを起こさないように確認を徹底し患者さんの気持ちを考えて行動することが必要だと思いました。」「どんな時でも確認を怠らず、インシデントはいつでもどこでも誰でも起こるものだと考えて行動する。患者の意見を聞き、医療者側からの一方的なサービスの提供にならないように注意する。」「患者さんは、正確な治療に加え精神面にも適切に対応してくれる医療を求めている。そのために、常に緊張感と責任をもって行動し、確認や伝達を怠らない。忙しいからと対応を疎かにせず、患者さんへの説明や声かけを行う。医療者間での連携を正確に行う、などが必要。」等記述している。このことから今回の学習目標を達成することができたと考える。課題として、他者の意見の共有や意見交換ができる時間の確保により、チーム協働の視点で考えを深めることができると考える。

5 おわりに

今後も患者の状況を正確に判断し、患者の思いに寄り添いながら根拠のある看護を実施できる看護実践能力の向上を図ることのできる授業づくりを行っていく必要がある。また、生徒が知識を統合させ、主体的に学んでいくことができる授業づくりに取り組んでいきたい。